

○身体機能等の低下リスクの判定基準（介護予防・日常生活圏域二一ス調査関係）

判定リスク	設問番号	設問の内容	該当する選択肢	
(1)運動器の機能低下	問2-Q1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1.できるし、 している 2.できるけど していない	3.できない
	問2-Q2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がりますか		
	問2-Q3	15分位続けて歩いていますか		
	問2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1.何度もある 2.1度ある	3.ない
	問2-Q5	転倒に対する不安は大きいですか	1.とても不安 である 2.やや不安で ある	3.あまり不安 でない 4.不安でない
(2)転倒リスク	問2-Q4	過去1年間に転んだ経験がありますか	1.何度もある 2.1度ある	3.週2～4回 4.週5回以上
(3)閉じこもり傾向	問2-Q7	週に1回以上は外出していますか	1.ほとんど外 出しない 2.週1回	2.いいえ
(4)うつ傾向	問7-Q3	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1.はい	2.いいえ
	問7-Q4	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1.はい	2.いいえ
(5)低栄養状態	問3-Q1	身長( )cm・体重( )kg	BMI<18.5 (※)	
	問3-Q6	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい	2.いいえ
(6)口腔機能の低下	問3-Q2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい	2.いいえ
	問3-Q3	お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい	2.いいえ
	問3-Q4	口の渇きが気になりますか	1.はい	2.いいえ
(7)認知機能の低下	問4-Q1	物忘れが多いと感じますか	1.はい	2.いいえ

判定と評価  
以下の判定基準に該当する場合は、その項目のリスク該当者となる。  
 (1) 運動器の機能低下：5つある設問のうち、3問以上該当する選択肢（灰色部分）を選択  
 (2) 転倒リスク：該当する選択肢を選択  
 (3) 閉じこもり傾向：該当する選択肢を選択  
 (4) うつ傾向：2設問のうち1設問以上該当する選択肢を選択  
 (5) 低栄養状態：問3-Q1のBMI判定で18.5未満かつ問3-Q6で該当する選択肢を選択  
 (6) 口腔機能の低下：3設問のうち2設問で該当する選択肢を選択  
 (7) 認知機能の低下：該当する選択肢を選択

※ BMI：肥満度を表す指標として国際的に用いられている体格指数で[体重(kg)]÷[身長(m)×身長(m)]で求められる。日本肥満学会の定めた基準では18.5未満が「低体重（やせ）」に分類される。

判定リスク	設問番号	設問の内容	該当する選択肢	
(1) IADLの低下(※)	問4-Q2	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	1.できるし、 している 2.できるけど していない	3.できない
	問4-Q3	自分で食品・日用品の買物をしていますか		
	問4-Q4	自分で食事の用意をしていますか		
	問4-Q5	自分で請求書の支払いをしていますか		
	問4-Q6	自分で預貯金の出し入れをしていますか		

判定と評価  
各設問ごとに、該当する選択肢（灰色部分）を選択している場合1点とし、5点を「高い」、4点を「やや低い」…IADLの低下リスク非該当  
0～3点を「低い」…IADLの低下リスク該当と評価している。

※ IADL（手段の日常生活動作）：乗り物の利用、買物、調整、財産管理等の日常生活上の複雑な動作のことを指す。一般的に、IADLの障害が起こってから、次に、食事、更衣、移動などのADL（日常生活動作）の障害が起こるとされている。